

2月 園だより

<教育目標> ・元気に遊ぶ子ども
・豊かに感じる子ども
・考え工夫する子ども
R5. 1. 31 文京区立本駒込幼稚園



体験が遊びや生活につながる

副園長 山下 美幸

暦の上では、間もなく立春を迎えますが、まだまだ寒い日が続いています。今年は、ほんこま自然園の池が凍り、午後になっても溶けない程、厳しい寒さの日もありましたが、寒さをものともせず、元気に遊ぶ子どもたちの歓声が園内に響き渡っています。

1月に年長すみれ組と年少ちゅうりっぷ組では、クリーンデーを行いました。クリーンデーは、コロナ禍以前、主に年長組が隣の車庫跡公園のゴミ拾いを行っていた清掃活動です。3年ぶりの開催となった今回は、落ち葉やゴミを拾い、園内をきれいにしていく代替案で行いました。木々の多い本園では、1月でも落ち葉がまだまだ落ちています。すみれ組は、ホウキを使って掃き掃除を行い、きれいになる気持ちよさだけではなく、自分たちがみんなの役に立つ喜びをあたためて感じる事ができました。また、毎日、きれいにしてくださっている用務主事への感謝の気持ちを感じる機会にもなったと感じます。この体験後、学級全体で相談し、翌日から、グループで行う当番活動の中に「園庭掃除」を取り入れることにしたようです。

ちゅうりっぷ組では、小さいバケツを一人一人手に持ちながら、落ち葉を集め、大きな箱に集めていきました。落ち葉をたくさん集めて入れた箱を見た子が友達と一緒に覗き込み、「いいこと考えた！ねえお餅つきしようよ」「うん！」といい、箱に入っている落ち葉をもちに見立てて、手にしていた小さなバケツを両手でもち、中の落ち葉に押し付けながら、箱の周りを歩く姿が見られました。12月にもちつきを経験した子どもたちは、大きな箱を臼に、手にしているバケツを杵に見立て、保護者の方々が杵を臼に押し付けながら歩いていた様子を思い出し、再現していたのです。2月には、年中さくら組がクリーンデーを行う予定です。そのさくら組の子どもたちは、寒さに負けず元気に園庭で「氷鬼」をして遊んでいます。今の時期ならではの空気や水の冷たさ、自分の手がかじかむ体験、池の水が凍ったことなど、子どもたちが体感したり、体験したりしたことが鬼遊びのイメージにもつながっているのだと感じます。

幼稚園教育要領の中に、「幼児が様々な人やものとの関わりを通して、多様な体験をし、心身の調和のとれた発達を促すようにしていくこと。・・・心を動かされる体験が次の活動を生み出すことを考慮し、一つ一つの体験が相互に結び付き、幼稚園生活が充実するようにすること」と示されていますが、クリーンデーの取り組みから見られた姿や寒さを体感したことが、明記されていることと感じています。

2月は1年の中でも一番短い月です。次に迎える3月は、1年間の総まとめの時期となり、子どもたちは進学、進級に期待を膨らませる時期となります。子どもたち一人一人の体験が遊びや生活につながるとともに、一人一人の自信や成長につながるように、より一層の園生活の充実を図ってまいります。保護者の皆様、地域の皆様、どうぞよろしくお願いたします。

